

施策評価（令和元年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-3 世界で活躍できるグローバル人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	総務課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和元年8月23日

1 施策のねらい（施策の目的）

グローバル化が加速度的に進展している社会において、ふるさとや異文化を理解し、協働的な問題解決の力や英語による発信力を育むため、地域の教育資源を最大限に活用するとともに、児童生徒の実践的な英語コミュニケーション能力を育成します。また、海外との多様な交流等により、県民の国際理解を促進し、国際感覚や世界的視野を身に付けた人材の育成や多文化共生の社会づくりを行います。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①							施策の方向性(1)	
年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考	
英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合(%)	目標			47.0	52.0	57.0	62.0	
	実績	37.1	49.1	48.3				
	達成率			102.8%				
出典:文部科学省「英語教育実施状況調査」		指標の判定		a				
順位等	全国	10位	4位	6位				
	東北	1位	1位	1位				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	<ul style="list-style-type: none"> 英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合は、平成29年度及び平成30年度は、文部科学省が目標とする50%に近づいており、順調に推移してきていると捉えることができる。なお、平成30年度の全国都道府県における順位は6位であった。 児童生徒の英語コミュニケーション能力の育成を目指して英語学習への動機付けを図ったことや、授業改善・教員研修等を実施して教員の英語力及び指導力の向上を図ったこと、中学2年生～高校3年生を対象に「英検I B A」を実施し、生徒の英語力の把握と学校における指導の改善を図ったことなどの成果が表れているものと考えられる。 							

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

施策の方向性(1)(2)

成果・業績指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
イングリッシュキャンプに参加した児童生徒数(人)	目標				755	770	785	800	
	実績		703	740	821				
出典:県高校教育課調べ		達成率			108.7%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-				
		東北	-	-	-				
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解と英語学習への動機付け等を目指し、イングリッシュキャンプを8会場で計19回実施した。平成30年度は小学3年生から高校3年生を対象に、その発達段階に応じて、わんぱくイングリッシュ(1日)、プレティーン(1泊2日)、ティーン(2泊3日)、スーパー(2泊3日)、リベラルアーツセミナー(2泊3日)を実施し、821名の児童生徒が参加した(応募者数1,088名)。参加者の満足度は高く(アンケート項目「とても充実していた」93.6%)、英語による発信力の向上が図られたものと考えられる。 								

施策の方向性(3)

成果・業績指標②		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
国際理解講座の実施件数(件)	目標				50	50	50	50	
	実績		50	35	26				
出典:県国際課調べ		達成率			52.0%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-				
		東北	-	-	-				
	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解講座は、県内のサークル団体や学校などが主催する講座に国際交流員を講師として無料で派遣し、出身国の文化や習慣を紹介するものである。平成30年度は目標未達成となったが、これは、国際交流に取り組む県民の高齢化などにより活動が低調となっているほか、国際教養大学などの他団体も同様の事業を実施していることから、学校・県民等からの依頼が減少したことが要因として考えられる。 								

施策の方向性(3)

成果・業績指標③		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
外国語情報提供の実施件数(件)	目標				264	274	284	294	
	実績		351	311	276				
出典:県国際課調べ		達成率			104.5%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-				
		東北	-	-	-				
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から件数が減少しているが、これは平成28年、29年度に単発のイベントがあり、それに関する外国語情報提供の件数が急増していたためである。 平成30年度は276件と実施件数が目標に目達することができたが、これは、多文化共生社会の促進により、県民をサポートする外国語情報提供ニーズが増加したことが要因として考えられる。 								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 「英語力日本一」に向けた実践的な英語教育の推進【高校教育課】

指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 県内全ての中学校・高等学校において、CAN-DO形式の学習到達目標リストの見直しを図り、パフォーマンステスト等の実施により4技能5領域の総合的な育成に向けて取り組んだ。 中学2年生～高校3年生を対象に「英検I B A」を実施し、生徒に求められる英語力の達成状況を検証するとともに、生徒の主体的な学習意欲の向上を図った。 県内3地区に小・中・高等学校それぞれの拠点校を配置し、外部専門機関（県内大学）と連携し新学習指導要領の内容等を踏まえた研究を協力校と共に推進し、全県の小・中・高等学校へその研究成果の普及を図った。 イングリッシュキャンプを実施し、児童生徒の英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解と英語学習への意欲の向上を図った（19回<+2回>、参加児童生徒821名<+81名>）。 A L Tについては、県立高等学校に24名、総合教育センターに1名配置しており、ティームティーチングによる授業を推進したほか、イングリッシュキャンプでも活用を図るなど、学校の内外で生徒の英語学習への意欲向上に貢献している。 	

(2) 学校等における多様な国際教育の展開【高校教育課】

指標	成果①
<ul style="list-style-type: none"> 小・中学生を対象に、世界で活躍できる人材の育成を目指して「あきたっ子グローバルびじょん」事業を実施した。4市町7小・中学校等が本事業を利用して海外勤務や留学経験をもつ方の講演等を行い、児童生徒が外国文化や外国での体験談に触れ、国際的な視野を広げ、将来の生き方について考えを深めた。 スーパーグローバルハイスクールに指定されている秋田南高校では、国際交流や課題研究等を通して、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図っている。社会問題に対する生徒の課題意識や課題探求能力が高まるとともに、国内外の様々なイベント等に参加するなどの成果が上がっている。 新たに米国ミネソタ州にあるセントクラウド州立大学で語学研修を行った（17高校から生徒30名参加）。文化交流活動やフィールドワーク等の体験を通して、異文化を理解し、国際社会に貢献しようとする姿勢を育むことができた。 スーパーサイエンスハイスクール指定校（3校）の生徒12名をタイ王国に派遣し、バンコク・クリスチャン・カレッジにおいて英語による課題研究発表や交流活動を行った。 	

(3) 多様な国際交流及び国際理解の推進と多文化共生社会の構築【国際課】

指標	成果②③
<ul style="list-style-type: none"> ロシア沿海地方や中国天津市等との青少年交流や学術交流等を引き続き実施している。県内の高校生をロシア沿海地方へ派遣し、現地の学生と文化活動等の交流を行った。また、県内の高校生を中国天津市へ派遣し、現地の学生と環境保護や文化交流等の交流を実施した。 日本人だけでなく外国人も暮らしやすい多文化共生の地域づくりに向けて、地域や関係機関と連携しながら、在住外国人を支援できる体制整備と機能の充実を図った。また、新たに県内高等教育機関に在籍する留学生と県民が、それぞれ講師、受講者となる講座を実施し、互いに異文化に触れることで相互理解を促進した。（計5回開催、参加者計66人）。 	

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

● 定量的評価: 代表指標の達成状況から判定する。

「A」: 代表指標が全て「a」、「B」: 代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」: 代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」: 代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」: 代表指標が全て「e」、「N」: 代表指標に「n」を含む

● 定性的評価: 成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価: 定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文		学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。					
満足度		調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見		16.6%				
	十分 (5点)		2.0%				
	おおむね十分 (4点)		14.6%				
	ふつう (3点)		42.3%				
	否定的意見		18.1%				
	やや不十分 (2点)		13.2%				
	不十分 (1点)		4.9%				
	わからない・無回答		23.1%				
平均点			2.94				
調査結果の認識、取組に関する意見等							
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.94」で、「ふつう」の3より0.06低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。</p> <p>「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.6%、「ふつう」は42.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.1%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は58.9%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと外国人と交流する機会を増やした方がよいと思う。(女性/30歳代/仙北地域) ・まだ、学校教育だけを受けて積極的に外国人と話そうという気持ちになっている子どもを見ていない。(女性/30歳代/秋田地域) ・英語教育だけでは英語コミュニケーション能力は育まれないと思う。文化に対する知識や理解が不十分であると思う。(女性/60歳代/北秋田地域) 							

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 文部科学省が示している生徒の英語力に関する目標を達成できていない。	○ 「AKITA英語コミュニケーション能力強化事業」により、国際理解及び英語学習への動機付けを図り、生徒の英語力を強化する。また、授業研究会や学校訪問指導等を通して指導助言を行い、教員の英語力・指導力の向上を図る。
(2)	○ 生徒が他国の高校生等との交流を通して、異文化やふるさと秋田に対する理解を深める機会が少ない(県民意識調査で同様の意見あり)。 ○ スーパーグローバルハイスクール事業を通して培った課題研究活動や、問題解決力育成に向けた授業改善の手法等の普及が十分ではない。	○ 高校生米国語学研修等により、英語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、異文化及び自国の文化を理解し、国際貢献の精神を育む機会を提供する。 ○ スーパーグローバルハイスクール事業の成果を共有するとともに、学校における国際教育の充実を図る。
(3)	○ 国際感覚や世界的視野を身につけた人材の育成。 ○ 国際理解の推進と多文化共生社会の構築。	○ 青少年交流等を中心とした多様な交流を推進し、グローバル社会で活躍できる国際感覚や世界的な視野を身につけた人材を育成する。 ○ 国際交流団体等による国際理解活動や国際協力活動を支援し、在住外国人も暮らしやすい多文化共生社会づくりを促進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「A」をもって妥当とする。
